－所蔵作品紹介－

百瀬　寿　MOMOSE Hisashi

NE.Blue to Black

作品データはこちら

百瀬寿（1944-）は札幌出身。少年期に旭川に移り、北海道旭川東高等学校、北海道教育大学旭川校へとすすんだ。大学では根守悦夫にエッチング（銅版画）を学ぶ。在学当時から抽象画に取り組み、卒業後、岩手大学専攻科に進み、今日まで盛岡で制作活動を続けている。シルクスクリーン技法の版画により、色彩のグラデーションを生かした個性的な版表現の世界を開拓していった。

当館の収蔵作品はこれまでほとんど1980年代までに制作された作品だった。この時期までは色彩をぼかしながら作ったグラデーションの作品で、その後80年代後半から、手漉きの紙や金箔、銀箔などを使ってグラデーションをつくり出している。本作は、手漉きの紙と箔、さらには岩絵の具を使用している。作品名の最初についている「NE.」はネパール紙からきており、ネパールの手漉きの紙のほか、日本の和紙などを使い、手漉きならではの質感が特徴である。アクリル絵具で色を塗った上にこれら手漉きの紙を貼り、その紙を水で濡らして上からブラシでこすったり、紙やすりで削ってグラデーションをつくってゆく。

本作は、令和元年度、ボランティア常磐会より寄贈され、「旭川ゆかりのアーティスト」（2020.7.11－8.30当館第２展示室）ですでに収蔵されていた80年代作品と共に展示された。同会は、当館の開館時（1982年）からミュージアムショップと喫茶コーナーを運営し、収益金により作品を購入し寄贈しており、本作は17点目である。これまで当館に百瀬の2000年以降の作品はなく、本作によって作家の作品を体系的にコレクションすることができた。

旭川美術館だより「氷華」No.63（2021.３発行）「収蔵品から」より